

⑧ 西氏功德碑



西道朴は名医で、人を憐れみ、誰にも優しく治療し金が無ければ無料で、時に米麦すら与えたという。河面氏とともに草津の牡蠣養殖・販売等、草津の発展に尽くした。

⑨ 浄教寺



浄土真宗本願寺派。1491年(室町時代)鈴が峰観音寺として開基。1592年(戦国)正信坊により現在地に移転、浄教寺と改名。本堂の「斗拱」、お経堂の鍍絵は見ごとである。境内の「臥龍の松」は国内最大級。

⑩ 教専寺



浄土真宗本願寺派。1561年(室町時代)草津に住んでいた武士が、本願寺に参詣、頭如上人の教えを受け、僧となり住居を寺とした。4本柱の向拝、本堂内の外陣に柱がないなど本堂の造りに特徴がある。

⑪ 薬師如来堂



廃寺になった阿弥陀寺の薬師如来像をこの地にお堂を移した。「おやっくさん」と呼ばれ、今でも眼病に効く「薬師」として、遠近よりの信者が絶えない。境内には百度石がある。

⑫ 幸福稻荷



社神は倉稻魂神うらのみたまのみことといわれ、穀物を司る神様である。昔、草津が大火や災害に苦しんだので、神頼みとして建立されたという。この付近は、三次藩の役所と、幕府巡検視の宿所があった所で、御茶屋敷とよんでいた。

⑬ 西楽寺



浄土真宗本願寺派。1613年(江戸時代)第2世信了坊が西楽寺を開基した。初め時宗、後に浄土真宗に改宗された。境内墓地には、牡蠣のヒビ建て養殖法を始めた「小林五郎左衛門」の墓がある。本堂の天井絵は見所。

⑭ 大釣井と地藏尊



草津は歴史に残る大火が5回もあり、地藏尊は火災を無くすために祀られたという。それ以後大火がなくなり、いまだに厚い信仰の対象となっている。大釣井は1600年(戦国時代)のころからあったものと思われ、街道を往来する人の飲料水となり、火事の場合、防火にも役立ったと思われる。

⑮ 大石餅跡



草津の西の海岸端に大石があり、その石のそばの茶店で餅を作り「大石餅」として売っていた。大石餅の創業は文政年間(1818~1830・江戸時代)で、大石餅は「オイシイ餅」にかかる。明治天皇が好んで食されたという。平成10年餅店は廃業された。